

研究代表者氏名 筒石賢昭

講座名 芸術系教育

研究テーマ；東アジア（中国・台湾・韓国・日本）における伝統音楽教育カリキュラムの開発
—その1—

事例研究1 中国における伝統音楽研究 中国箏における専門教育の現状 筒石賢昭・沈莉卓

1 中国における箏の位置

箏は中国の最も歴史のある民族楽器である。古文書によると、春秋、戦国時代（BC770～BC221）年に広まったと記載されている。既に2000年以上の歴史を持つため、中国語では古箏（こそう、グーチェン）と呼ばれる。長い歴史の中で、箏も時代の流れとともに、大きな変遷を遂げてきた。最初5本の弦であったのが、現在21本まで発展している。また、地域によって、多くの流派を生み出している。

箏の専門教育は中国建国（1949）から今まで、半世紀以上多くの経験や実績を積んできた。現在中国の音楽大学、教員養成大学に多く箏の専攻が設置されており、各自の流派や指導のシステムを築いてきており、伝統的な演奏表現を基に現代風のパフォーマンスまで多くの表現スタイルを生み出した。伝統的な演奏スタイルに西洋音楽の表現の要素を加えて演奏するのが専門教育機関において、一般的になっている。しかし、西洋音楽の表現スタイルを過度に追求する動きがみられ、中国伝統音楽の魅力が失われている場面もしばしば見受けられる。

中国の音楽教育を考える際に、如何に中国伝統的審美観を維持し、また演奏技法の向上につなげるかは大きな問題点である。箏の伝統的教授方法の中には、即興演奏と口頭伝承という二つの大きな特徴がある。現在既に完成されている定番の曲を演奏するのが一般的であり、生徒の即興演奏の能力はあまり重視していない。

口頭伝承で受け継がれた伝統的表現が西洋音楽の理論の影響を大きく受け、楽譜に過度に頼るなど表現の枠が狭まり、個人の表現の空間が制限されつつある。どうすれば、箏の専門教育機関において、中国伝統文化の真髄である部分を教授できるか、これは私自身の演奏経験を通じて実感し気がついた一番大きな問題点であると言える。

また、音楽大学など専門教育機関において、箏の音楽教育カリキュラム、指導法の面で様々な問題点が存在している。こうした問題点を受けたことと長年箏の演奏や指導にあたって、一定の経験を積んでいるが、箏の指導にあたり、より一層、理論的な側面と実際の側面の総合的な勉強や研究を積み重ねる必要があると感じたのが動機である。

2 研究目的

本研究の目的は、中国の箏の専門教育の現状分析を通して、箏の教育の発展の流れの中、どのような問題点や優れた点があったのかについて分析を重ね、これからの箏の教育や指導に一定の示唆を得ることである。

3 研究方法

- (1) 古箏演奏家（沈莉卓東京学芸大学筒石研究室所属）の大学学部時代の学習経験を分析する。
- (2) (1) の指導経験を分析する。
- (3) 中国各音楽大学の異なる流派の授業を参観し、教授方法を分析する。（沈、筒石）

4 研究内容

現状解析

(1) 中国音楽大学箏専門教育の概況

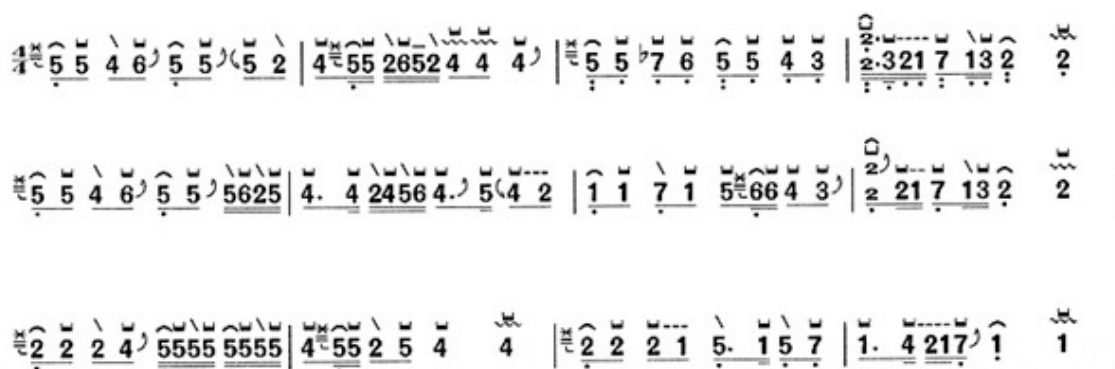
中国の音楽大学において、箏専門の教育は表現専攻として位置づけられている。授業形式はほとんどマンツーマン形式である。固定教材はなく、教員は学生の学習の進度により、曲目を自主選択するのが一般的である。曲目は主に伝統曲と現代曲と2種類ある。指導教員は学生がこの2種類の把握進度によって、曲目を選び、授業を行う形になる。伝統曲は音楽大学によって異なるが、南北の地域によって、地域の伝統曲がそれぞれ決められている。

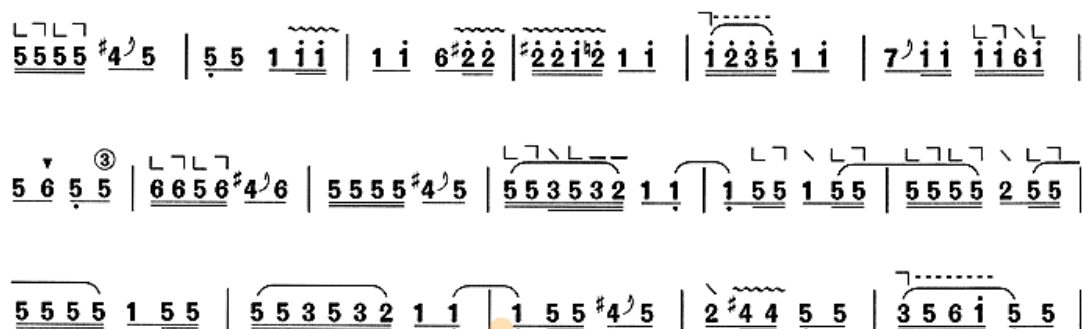
中国の箏の伝統流派

中国の南流派	中国の北流派
潮州箏	山口箏
客家箏	河南箏
浙江箏	□西箏

楽譜例1 南流派の代表曲 「寒鴉戏水」

(潮州箏)





(2) 専攻の位置づけ

中国の音楽大学の各専攻で、箏は表現専攻のうち、琵琶、揚琴、二胡、笛、笙などと同じく民族楽器学科に配置されている。

3) カリキュラム構造

音楽大学の箏専攻の学生は箏以外、もう一つの民族楽器を選択する必要がある。楽理、ソルフェージュ、ピアノ、和声、指揮、合奏、音楽分析などは必修科目である。音楽専攻としての基礎科目でもある。

特に、合奏の授業は箏専攻の科目の中で、最も重要な授業であり、楽器との合わせる力を養う効果があり、箏という楽器の特徴を生かした科目でもある。

5 現状の問題点

- 1) 中国は国土が広いため、地域によって言語、習慣、民俗、歴史が異なり、それにより、音楽スタイルの大きな違いを生み出したのである。南の箏の演奏スタイルとして、女性のような柔らかい、細かいという印象を受けるが、北の演奏スタイルは力強いという印象を受ける。北の演奏スタイルの問題点として、現代曲を演奏する際に、柔軟性が欠如することなどが挙げられる。一方、南の演奏スタイルは迫力が欠如するのが問題点として挙げられる。
- 2) 音楽大学の箏専攻生は高度な専門性を培う方針のもとで教育を受けることになる。曲目のスタイルは主に師匠である教師の演奏を真似するという口頭伝承の形になるが、教授方法に関する指導・研究はあまり行われていないのが現状である。後で、学生たちが指導を行う場合に、混乱することが多く見受けられるからである。
- 3) 即興演奏に関する指導が不十分である。箏は古来から伴奏楽器として非常に重要な役割を果たしてきたのに対し、現代の箏の演奏は独奏演奏を中心とした指導が行われている。即興演奏の能力を培うことは、生徒の表現力の向上につながるため、指導に当たって、重視しなければならない。

即興演奏に含まれているのは、中国伝統音楽文化の真髄であり、中国音楽文化の真の理解にもつながるといえるだろう。

6 現状の問題解決案

- 1) 音楽大学の教員は普通は地元出身の演奏家であることが多い。そして、教え子が教員と同じ演奏スタイルで教育するのが一般的であり、南北の演奏スタイルの交流、融合を進めることが、演奏スタイル上の問題点の解決方法として考えられる。南北の間の客員教授の交換、異なる地域の優秀な人材を確保することは学生たちに多くの演奏スタイルの把握、演奏表現を豊かにする手段でもある。
- 2) 専攻生は普段演奏することだけに集中し、演奏家を目指しているが、人に教授する能力を養う必要性を忘れがちになる。学生たちが演奏、表現を重視するとともに、教授する力を培うことにも力を入れて授業を行う、教師の指導言を体系的に教材化することは学生たちの教授能力を向上させるとともに、演奏技術も向上させることが期待される。

事例研究 2 中国における民謡を中心とした朝鮮族の音楽教育

—小学校を例として—

筒石賢昭・鄭恵文

はじめに

【研究の動機】

＊鄭{東京学芸大学大学院生筒石研究室所属は朝鮮族の出身であり、小中高までは遼寧省瀋陽市の児童・生徒であった。その時の教育が、国語は中国語と朝鮮語を学習し、音楽については朝鮮語による朝鮮の音楽を主体として、そのほかに中国の音楽や世界の音楽を含んでいた。大学は音楽学¹専攻になり、音楽の基礎的な知識から学習し始め、クラシックを主体として、中国多民族の音楽を学習した。その時期の学習は多方面ではあったが、深い学習ができなかった。私は小学校から高校卒業まで、学校で受けた朝鮮族音楽教育の期間は長い、それについて聞かれた時、表面的な答えしかできなかった。朝鮮族として、朝鮮族音楽を深く知り、愛着を持つために、音楽専攻の角度から、もう一度深く朝鮮族の音楽教育を学習したいのが本研究の動機である。

【研究の背景】

中国の『課程標準』（2001）によると、国、地方と学校の3段階の課程管理を実施し、国の課程の他にも、地方と学校の自主的に開発した課程も一定の比率を占めるべきである。地方と学校は当地の人文、地理環境と民族文化の伝統に合わせて地域、民族と学校の特色のある音楽課程資源を開発するべきであると述べている。それに従って、朝鮮族の教科書は吉林省延边教育出版社から出版されている。音楽科の『課程標準』も朝鮮語に翻訳されている。

【研究の目的】

- ・2007年以後の中国における朝鮮族の音楽教育を明らかにする。
- ・そのために、朝鮮族の音楽教科書の分析をする。

【研究の対象と範囲】

小学校 1年から6年

【研究の方法】

教科書の朝鮮民謡を通して、その特徴を検討する。

【朝鮮族について】

朝鮮族は中国に居住する朝鮮民族のことである。中華人民共和国の民族識別工作により定義された少数民族の一つ。在日韓国・朝鮮人のような外国籍集団ではなく、中国の国籍を持つ中国人である。中国国内に住む朝鮮民族であることを明確に示すため、中国朝鮮族又は韓国系中国人/朝鮮系中国人とも呼ばれる。

中国朝鮮族の総数は、2000年段階で約200万人である。これは在米韓国人の数に匹敵し、朝鮮半島以外では最大級の朝鮮民族コミュニティといえる。中国国内の分布は中国東北部（旧満洲）に集中し、中でも吉林省に約120万人が居住し、吉林省南部の延边朝鮮族自治州（首府延吉市）に約80万人が集中している。延吉市には、中国語と朝鮮語で教育する延边大学も設置されている。このほか、黒竜江省に約45万人、遼寧省に約25万人、内モンゴル自治区に約2万人が分布し、関内（山海関以内）の北京、天津、青島、上海などの大都市にも進出している。各地の朝鮮族集住地区には、行政的に朝鮮族自治県（吉林省長白朝鮮族自治県）や、多くの朝鮮族郷・鎮が設置されている。これら東北三省の首府には、朝鮮族の学校や放送局、新聞社、出版社などが設置されて、朝鮮語の普及を行っている。

朝鮮族は自治州で中国国民として孤立語の中国語、朝鮮民族として膠着語の朝鮮語を学び、朝鮮族は日本語と同じ語順の朝鮮語が母語であるために、漢民族よりも日本語能力も高く、その語学力で日本企

¹ 中国の大学では、一般的に音楽教育も音楽学の一つとしてカリキュラムに位置づけられている。

業に就職する事がよくある。



1 音楽科の目標

教育及び音楽実践活動を通して、音楽を愛好する情趣（心情）を育てるとともに、音楽を体験し、音楽を鑑賞、表現、創造する能力を培い、音楽素養を高め、豊かな情感を体験し、高尚な情操を養う。

2 各学年の目標

(1) 第1学年及び第2学年の目標

- ♪ 児童が音楽に対する興味を持ち育てる。
- ♪ 音楽を味わい、音楽の美感を体験する。
- ♪ 自然に、表情豊かに歌えて、様々な音楽に親しむようにし、即興的に表現する。
- ♪ 積極的な態度と友好精神を養う。

(2) 第3学年～第6学年の目標

- ♪ 児童が音楽に対する興味を保つ、楽しく音楽活動に親しむようにする。
- ♪ 音楽を感じ取り、鑑賞する能力を養う。
- ♪ 音楽を表現する能力を養う。
- ♪ 芸術の想像力と創造力を養う。
- ♪ 積極的な態度と友好精神を養う。

3 各学年の内容（選択）

3.1 教材例 「豊年歌」(punnnyonnga) 4年前半



풍년가

조선민요

(V)

풍지 올지 - 년화해화 - 이자도자 - 왔중풍중 - 네다년다

(V)

풍일명얼 - 년씨에씨 - 이구도나 - 왔중풍중 - 구구 - 네중년중 - 네

V

금명년명 - 수년년년 - 강춘세오 - 산월마월 - 에에다에

V

풍화풍유 - 전전 - 년놀이 - 이를이를 - 왔가로가 - 구 - 네자나자





아 리 랑

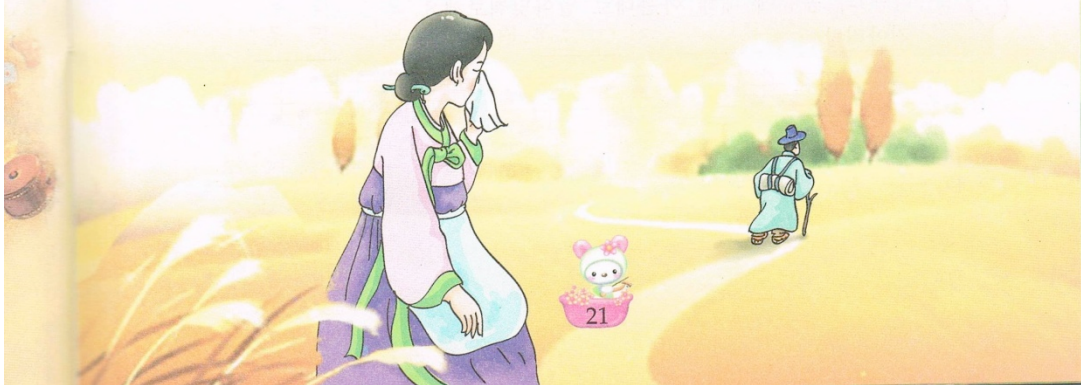
조선민요

아 리 랑 - 아 리 랑 - 아 라 - 리 - 요
아 리 랑 - 아 리 랑 - 아 라 - 리 - 요

아 리 랑 - 고 - 개 - 로 - 념 어 간 다
아 리 랑 - 고 - 개 - 로 - 념 어 간 다

나 를 버 리 고 가 시 는 념 - 은
청 청 하 늘 엔 별 도 - 많 - 고

십 리 도 - 못 - 가 - 서 - 발 병 난 다
우 리 네 - 살 - 림 - 엔 - 수 십 도 많 다



제 5 과



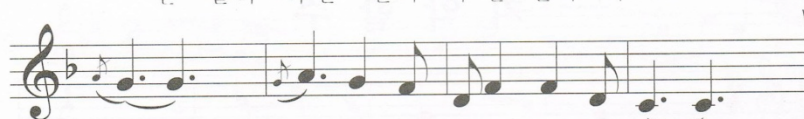
돈돌라리

홍경계

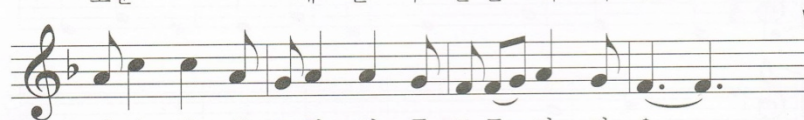
조선민요 V



돈 돌라-리 돈 돌라-리 돈 돌라 리 요 -
돈 돌라-리 돈 돌라-리 돈 돌라 리 요 -



고향 - 산 천 에 돈 돌 라 리 요 -
고운 - 새 들 이 돈 돌 라 리 요 -



빨 간 단 풍 노란 단 풍 돈 돌-라 리 요 -
알 곡 풍 년 과 일 풍 년 돈 돌-라 리 요 -



리 라 - 리 라 리 돈 돌 라 리 요 -
리 라 - 리 라 리 돈 돌 라 리 요 -

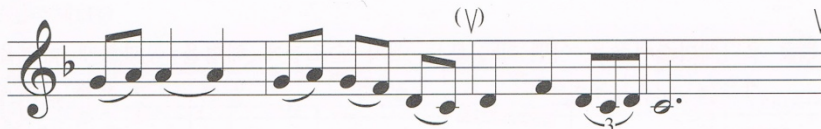
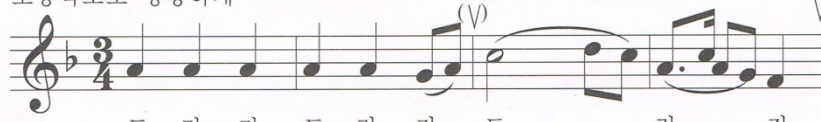


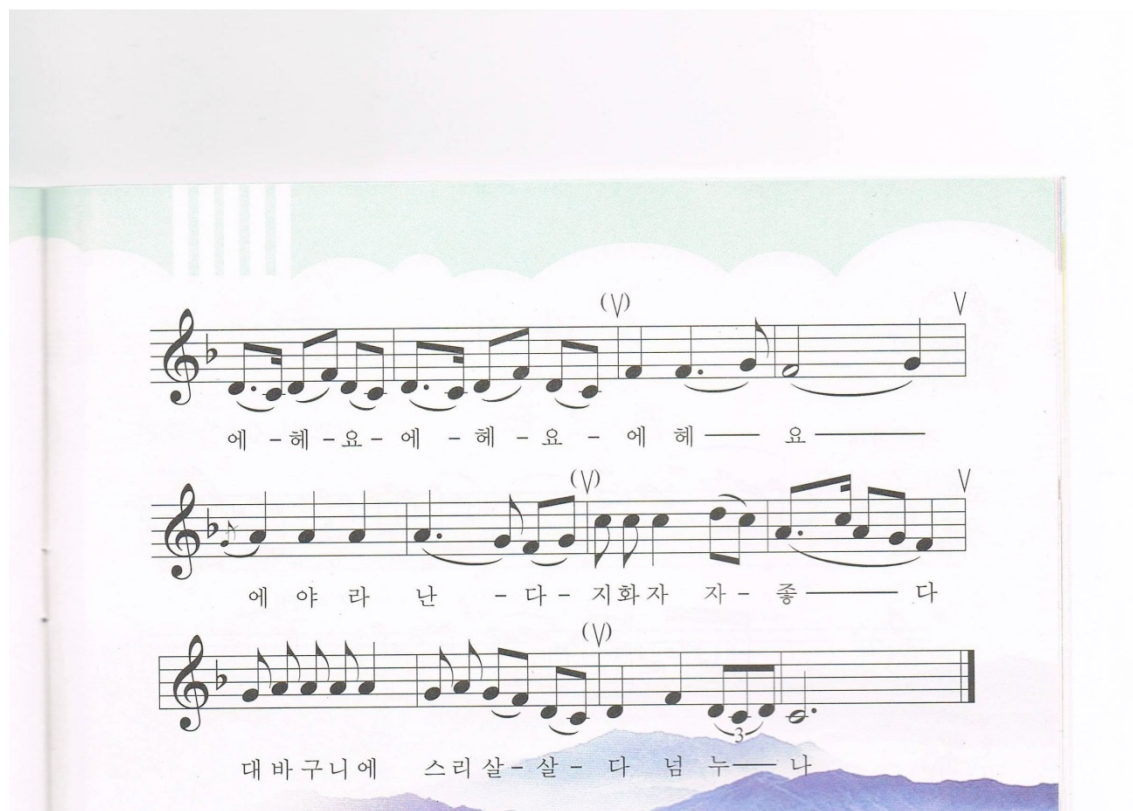


도라지

보통속도로 명랑하게

조선민요





4 まとめ- 中国における朝鮮民謡のもつ特徴

母語の朝鮮語で歌うので自分たちの民族を意識し、愛着が湧く。彼らにとっては旋律が簡潔であり、歌いやすい。曲の構造として拍子を見ると3拍子が多く、音階は5音音階を基礎としている。